
パロディ町

日海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パロディ町

【Nコード】

N9904D

【作者名】

日海

【あらすじ】

とにかく、パロディ、パロディで攻めていきます。あなたはいくつわかるかな？

説明

この物語は、作者の娯楽を淡々と描く物です。

過度な期待はしないでください。

あと、部屋は明るくして、PCから3メートルは離れて読みやがって下さい。

ちなみにどんな感じなのかは、考えていないので。

目標は、1話5パロディ。

わからなくても読める程度にやっていきたいと思います。

ここまでやったら駄目でしょと言つのがあれば、そのつど評価のほうから送ってください。

お願いします。

その場合は、対処を検討します。

あ、もうこれで終わりですよ。

(これじゃ概要の説明だけじゃんって思った人は負けです)

最初は俺だってこんなに腐ってなかったよ（前書き）

少々（？）読みにくいと思いますが、がんばってください。

最初は俺だってこんなに腐ってなかったよ

サンタクロースはいつまで信じていたかなんていうことは、他愛もない世間話にもならないくらいどうでもいい話だが・・・
なんて書き出しで始めたら大体の人はどう思うのだろうか。

ネタのわかる人は、さまざまな反応をするであろう。

わからない人からすれば何書いてんだ？という反応しかできないであろう。

しかし状況的には同じで、今坂道を自転車で登っている。

無論、今日は入学式というところだ。

まあ、もちろん最初から私も信じてはいない。

が、さてさて宇宙人や未来人や幽霊や妖怪や超能力者や悪の組織やそれらと戦うアニメ的特撮的漫画的ヒーローたちが、この世に存在しないのだという事に気が付いたのは相当後になってからだった。
いや、本当は気付いていたのだろう。

ただ気付きたくなかったのだ。

俺は心のそこから宇宙人や未来人や幽霊や妖怪や超能力者や悪の組織が目の前にふらりと出てきてくれることを望んでいたのだ。

ここまではほとんど完全なるパロディではなくパクリで書いてきたのだが、この世界はちよつと違う。

宇宙人と幽霊は分らないが、未来人と悪の組織とそれらと戦うアニメ的特撮的漫画的ヒーローたちはいないが、妖怪と超能力者はこの世界に存在しているのだ。

もちろん、超能力者は限られた世界でしか力を使えないとか、潜水艦と精神をシンクロみたいなこととして動かすわけでもない。

本当の超能力。

ものを浮かしたり、テレポーテーションしたりする人もいる。

妖怪は、鯉ヘルペスだとかそういうのではなく、普通に河童とかそんな感じなのだ。

しかし、その超能力者も妖怪も希少価値ではあるわけなのだが。そんなことはどうでもいいのだが・・・。

と、まあそんなこんなをしていると、学校に着く。

やはりこの学校は交通の便が悪いな。だから人が集まらないんだよ。まあ偏差値的に仕方が無いからこうして坂道を自転車で登ってきているわけなのだが・・・。

そして俺は自転車を置いて教室に向かうことにする。

学校は五階建て。

教室棟、特別教室棟、部室棟に分かれている。築二十年を去年迎えたらしい。

学校の名前は・・・なんだったかな？校門のところを見ておけばよかった。

ま、別に学校の名前を覚えておく必要はほとんど無いんだけどな。

教室に入ってみる。時間は・・・まだ入学式まで時間はある。

教室を見回してみるが、あまり喋っている人はいないようだ。

一度学校説明会で集まっているだけの教室なので、グループはできていないのだ。

おっと、もうすぐ入学式が始まってしまう。

こうして入学式に向かわなければならぬ。

まだ入学式だからこうなっているが、一ヶ月も経てば女子たちはグループになり恋愛の話をするようになり、男子はきつとかわいい女子のリストを作るやつが出てきたり、スポーツやテレビの話をするようになるのだろう。

実際投稿しているのが入学式等の直前なので言うておくが、緊張しても実際は結構簡単に物事は進む。

だから、緊張したって仕方ないのだ。

緊張するだけ無駄で、結局一ヶ月で大体の人はクラスに溶け込めるものなのだ。

そして今俺は入学式の最中で暇なので、無駄話でもしようと思う。まずは自己紹介をしよう。

俺の名前は心。朝風心。あさかぜこころ

ニックネームで呼ばれ続け、名前が出ないなんて事はない。

趣味は読書、料理、けんか、アニメなど色々。

特に愛読するのは半月、ハルヒ、ゼロ使などのラノベ。

とりあえず言っておくが、ヲタクではないぞ。

このアニメを見るという行為は中学のとき偏見を無くすという挑戦をしていたらはまってしまったのだ。

特に好きなのは、フルメタ、瀬戸花、黒猫が大好き。

特にフルメタの完成度は高いよな。

○を使つて著作とかそういう的に大丈夫にしないでいいのかな？
なんてことは気にしない。

これから先もそういうことがあるだろうからな。

話は戻るが、フルメタ好きは下川○くにも大好きということにも繋がる。

特にtomorrowが、、なんていつてると尽きないから止めておこう。

だがこのネタの最後に言っておこう。フルメタMUSICはどれも完成度が高いぞ。

それでは学校に来るときの話を続けてみよう。

だがたぶん筆者がめんどくさいから本編にかかわってくるような登場はしないだろう。

ストーリーとかそっちのけでやりたいしね。

ネタが尽きたら使うかもしれないけど。なんでもありだろうし。

.....

よく考えてみると何も考えずに執筆始めたから書くことないなあ。
まあいいか。

と、いうわけで話を続けるが、この世界には妖怪がいる。

この妖怪というのは、日本で言う妖怪以外にも外国の幻獣や怪獣のこととも言つ。

日本の妖怪で言うと、九尾の狐とか鬼とか。

怪獣には、竜とかクラーケンとかそういう感じ。

どっちにしるあえる確立は一生に一度あるかないか位なんだけどな。それはそうとあなたには龍とドラゴンの違いが分かるだろうか。

大体の人は分かっているだろうが、羽があるかないかだ。

それ以外にも、龍とドラゴンにも色々な種類があるのだが、その中にも火を吐けるものと吐けないものもあるのだ。

このように、外国とアジアでは違ったりするのだ。

このような知識は大体図書館でも手に入るが、暇なら遠野物語という本を読んでみてほしい。

遠野の村の伝説に触れるからな。神隠しとか、そういう話に。

おっと、もう長いはずの校長の話も終わったな。

結構短かったな。

みんなが整列して教室に戻っていく。かったるかったなあ。

これから教室ではきつと自己紹介でもするのだろう。

自分の後ろに『ただの人間には興味はありません』とか言ってくれ
る人がいたらいいのになあ。

最初は俺だってこんなに腐ってなかったよ（後書き）

次話のもうちょっと読みやすくしていきますので、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9904d/>

パロディ町

2010年10月10日23時33分発行